

月刊



平成24年2月1日発行 通巻193号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

湖国が滋る・水と緑の街づくり

CONTENTS

- ・「建築甲子園」報告 …… 2
- ・平成24年 建築関係合同年賀会
開催 …… 3
- ・草津市役所からのお知らせ …… 4
- ・2月1日以降のCPD認定
プログラム情報
- ・支部だより
湖南支部・湖北支部
- ・アイ・湖国びと …… 5
- ・がんばれ湖国の建築士 …… 6
- ・2月の暦
- ・おうみ賢人



うもれぎのや
埋木舎 (彦根市)

旧彦根藩主井伊家の屋敷跡。井伊家の十四男として生まれた井伊直弼が13代彦根藩主となるまでの不遇の時期、天保2年(1831年)以後15年を過ごした屋敷として有名で、「埋木舎」は直弼の命名である。本来は「尾末町御屋敷」あるいは「北の御屋敷」の名で呼ばれていた。彦根藩主の十四男として生まれた井伊直弼は5歳のとき母を失い、17歳のとき隠居していた父井伊直中(11代藩主)が亡くなり、弟の井伊直恭とともにこの控え屋敷(尾末町御屋敷、北の御屋敷)に入った。300俵の捨扶持の部屋住みの身分であった。3年余りして直弼20歳のとき、養子縁組の話があるというので弟とともに江戸に出向くが、決まったのは弟の縁組だけで、直弼には期待むなしく養子の話がなかった。直弼はしばらく江戸にいたが彦根に帰り、次のような歌を詠んでいる。

世の中を よそに見つつも うもれ木の 埋まれておらむ 心なき身は
 自らを花の咲くこともない(世に出ることもない) 埋もれ木と同じだとして、逆境に安住の地を求めてその居宅を「埋木舎」と名づけた。(ウィキペディアより抜粋)

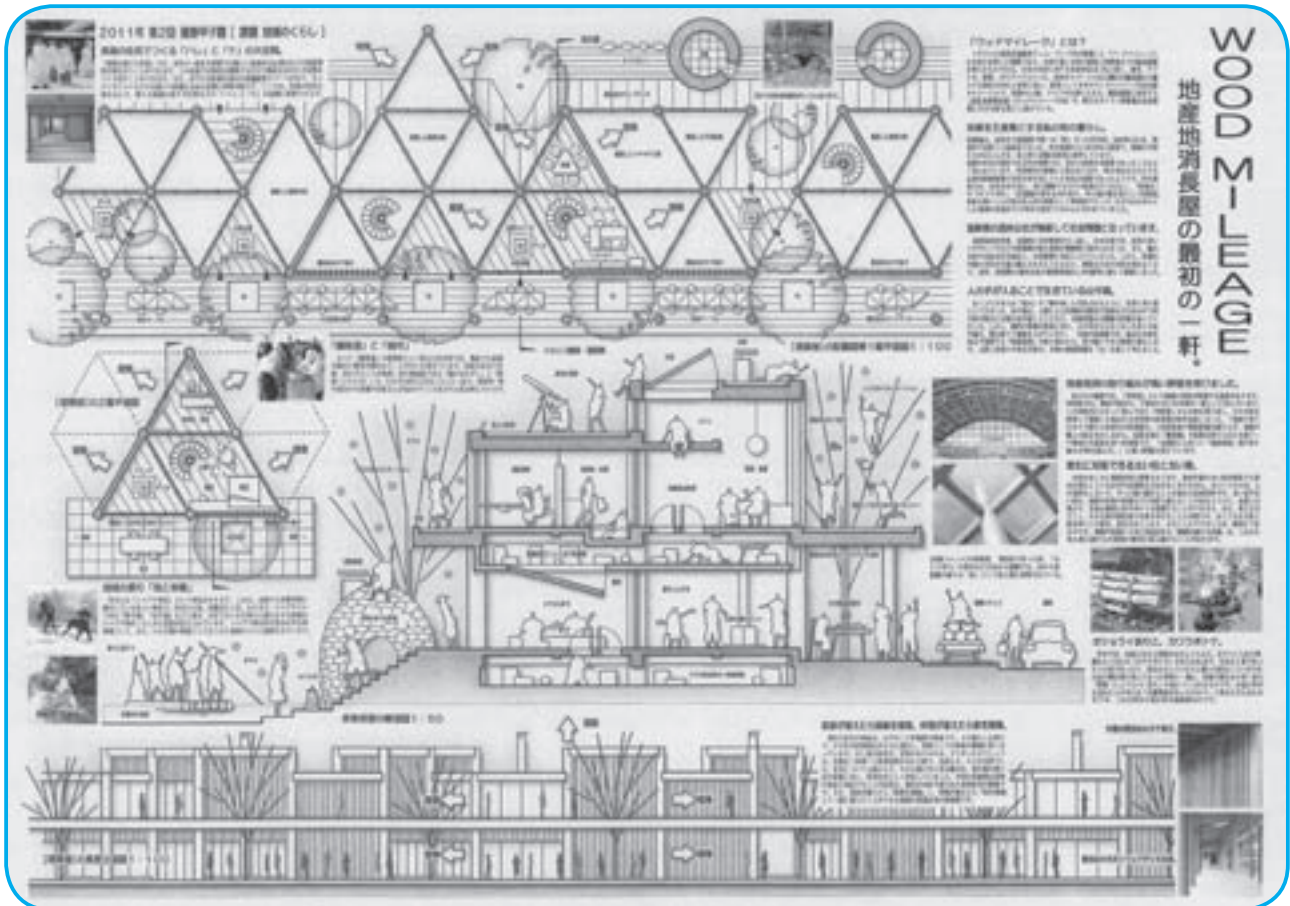
おうみ賢人
(第5回)

祝

滋賀県立安曇川高等学校

高校生の「建築甲子園」準優勝

滋賀県立安曇川高校「WOOD MILEAGE 地産地消長屋の最初の一軒」



昨年、第1回にて優勝を飾った安曇川高校が今年も準優勝を遂げました。滋賀県予選では、厳しい意見も出ていましたが、2年連続の入賞は滋賀県建築士会としてもうれしい結果となりました。

詳細は、<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/kenchiku-koshien.html>に掲載されていますのでご覧ください。

・・・滋賀県予選の総評・・・

今回は、滋賀県立八幡工業高等学校、滋賀県立安曇川高等学校の2校の応募があり、去る平成23年11月22日審査会を開催し、慎重審議の結果、滋賀県立安曇川高等学校総合学科建築デザイン系列3年生の「山形るな」さんの作品が優勝となり全国大会に推薦することにしました。

滋賀県立安曇川高等学校は、第1回の「建築甲子園」大会で全国優勝という快挙を成し遂げた。

これは、滋賀県建築士会にとっても何物にも変えがたい栄誉であり、誇りでもある。

第2回大会には、同校の太田昭博先生の適切な指導の下、テーマである「地域の暮らし」に合致した作品であり、また、誠に時宜にかなった提案である。戦後の日本の地域社会では急速に核家族化が進み、それと同時に地域社会の中で大切に守られてきた生活文化の中の相互扶助の精神が希薄になり、人と人の大切な絆が衰退してしまった。

我々人間の本当の幸せとは、物の豊かさではなく、心の豊かさであることに気がついた。

そこで、この作品は、現在まで日本人が地域社会の中で大切に守り続けてきた良き生活文化を今一度取り戻すこと

により、地域の暮らしに潤いと活力をもたらすことが出来るという提案である。

幸いにも滋賀のこの地方は豊かな自然と風土に恵まれ、そこで育まれた祭りや「しきたり」数々の伝統行事が今なお色濃く残っている。

この先人の遺産を今後の街づくりや地域づくりに活かすことにより、人々の暮らしの中で再び人と人の絆が甦えるのではないだろうか。

この地域では、地場産業では林業が中心である。

そこで、木材の地産地消のモデルケースとして、この地方の学校では、各校が「学校林」を持っており、その維持管理は、生徒自身で実践しており、地産地消の成果をあげている。

まさに、自然を友とし、自然の中で生きた教育が推進されている。

今回提案で“WOOD・MILEAGE”をコンセプトとして「地産地消 長屋の最初の一軒」は、三角型を一つの基準として、各ブロック毎に夫々の機能と用途を十分配慮し、大変美しいハーモニーで平面計画を纏めている。

また、将来に向けて家族・仲間の異動による人員の増減にも十分対応出来るプランである。

この長屋に使用する建築素材は、地産地消で将来の変化に対応可能な太い柱、太い梁（長寿が約束される素材）を使用している。

この長屋は、周辺の景観に調和し、木の持つ「ぬくもり」と同時に人への心の「ぬくもり」が伝わってくる建物である。

そして、昔から伝承されてきた「しきたり」でもある。

我が家で営むことの出来る「ハレ」や「ケ」のイベントの大空間となり、ここから、昔の良き時代の「人・物・心」が甦り、忘れかけていた人と人との絆が一段と深まることにより、地域の人々の暮らしがより一層豊かになるのではないだろうか。



審査委員長 本城 博一

平成24年 建築関係合同年賀会が開催されました

開催日：平成24年1月13日(金)

開催場所：大津プリンスホテル

参加団体：(社)滋賀県建築士会

(社)滋賀県建築士事務所協会（幹事）

(社)滋賀県建築設計家協会

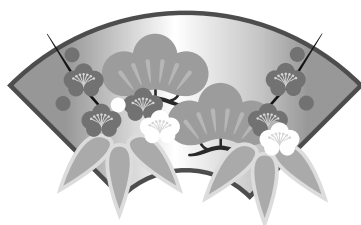
滋賀県建築設計監理事業協同組合

(社)日本建築家協会近畿支部滋賀地域会



(社)滋賀県建築士事務所協会会長挨拶

平成24年1月13日(金)に大津プリンスホテル コンベンションホール「淡海」にて、「平成24年建築関係五団体合同年賀会」が、ご来賓を含め180余名の参加者で開催されました。



県建産連・辻野会長の音頭による乾杯

説明会にご参加ください

～草津市景観計画、草津市景観条例、草津市屋外広告物条例～

草津市では、「心地よさが感じられるまち」づくりを目指して、草津市独自の景観計画、景観条例、屋外広告物条例の制定に向けて取り組んでいます。

これらの計画や条例の内容について説明をさせていただきます。

- 日時** ①平成24年2月25日(土) 13:30～15:00
 ②平成24年2月26日(日) 10:00～11:30
 ③平成24年2月26日(日) 13:30～15:00
 ※説明内容は①～③の全日程で同じですので、ご都合の合う日程にご参加ください。
- 会場** 草津市役所 8階 大会議室
- 問合せ** 草津市役所都市計画課景観グループ ☎077-561-6507
- その他** ・事前申込みは不要です。・参加料は無料です。

2月1日以降のCPD認定プログラム情報

詳細はプロバイダーにお問い合わせください。

地域	日時	認定プログラム名	プロバイダー名	会場	単位
滋賀県	2012年2月3日	技術法令委員会勉強会	社団法人滋賀県建築士事務所協会	ホテルボストンプラザ草津	3
滋賀県	2012年2月7日	平成23年度安全指導者研修会	建設業労働災害防止協会滋賀県支部	滋賀県建設会館4階大会議室	2
滋賀県	2012年2月8日	長寿命化リフォームセミナー（事業者向け）(A25-01)	一般社団法人住宅リフォーム推進協議会	大津商工会議所9階会議室1・2	3
滋賀県	2012年2月10日	技術法令委員会勉強会	社団法人滋賀県建築士事務所協会	マリアージュ彦根	3
滋賀県	2012年2月12日	民家移築再生の魅力とプロセスを学ぶ	社団法人滋賀県建築士会	古材の郷 島村葎商店	3
滋賀県	2012年2月14日	建築現場における環境配慮とコンプライアンス	滋賀県建設業協同組合	滋賀県建設会館	3
滋賀県	2012年2月15日	安全管理の実践・総合評価方式の勝ち方	建設業労働災害防止協会滋賀県支部	湖南建設会館3階会議室	7
滋賀県	2012年2月15日	一級/二級/木造建築士定期講習(5A-04)	財団法人建築技術教育普及センター	立命館大学びわこくさつキャンパス	6
滋賀県	2012年3月8日	一級/二級/木造建築士定期講習(5A-05)	財団法人建築技術教育普及センター	ひこね燦ばれす	6

※他府県の情報は、(社)滋賀県建築士会のホームページの【建築士会継続能力開発(CPD)制度】からご覧いただけます。

支部だより

湖南支部

栗太八景(詩碑)めぐり

近江八景、琵琶湖八景は有名ですが、栗太八景はご存知ですか。そもそも八景とは中国の瀟湘八景をもとに、日本各地でその土地の八景を詠むことが流行しました。そうしたなかで最も古くよく知られているのが近江八景です。

近江では、平安時代から名所の歌が詠まれ、描かれてきました。こういった伝統の上に立って、近江八景は現在のものに定まってきたと思います。

江戸時代の中期、寛延3年(1750)ころに、大橋(現栗東市)慶崇寺の僧致遠は、栗東市周辺の栗太郡を範囲とする、栗太八景を選定しました。

この栗太八景(詩碑)をめぐるのは、手原駅から次の順序で回られることを推奨します。

①松島秋月(大橋の慶崇寺)→②金山暮雪(大橋の三輪神社境内)→③上野夜雨(旧東海道筋林)→④伊勢落晴嵐(旧東海道筋伊勢落)→⑤砥山夕照(北の山の上池)→⑥「赤坂帰樵」(小野の赤坂公園)→⑦手原行人(手原の稲荷神社)→⑧蓮台寺晩鐘(下鈎蓮台寺跡)また⑥～⑦の途中の葉山川に架かる手原橋の欄干には栗太八景の漢詩と書き下し文、山水画で表現した陶板があります。その内の一枚には栗太八景の由来を詳しく説明してあります。

山水画を鑑賞しつつ、漢詩を楽しみながら、お正月で増えた体重のダイエットに、皆さんも一度歩いてみませんか？

湖北支部

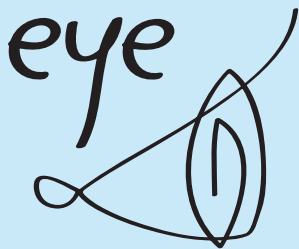
第3回講習会「地域におけるデザインの力」を開催

湖北支部では、去る12月6日(火)長浜勤労者総合福祉センター臨湖2階第6会議室に於きまして、「地域におけるデザインの力」と題して、滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科教授印南比呂志先生をお招きし、講習会を開催いたしました。

生活の中の道具から、建築物・都市計画まで手がつけられる印南先生から、建築とは様々な可能性を秘めている。単に建物だけが建築ではなく、身の回りの色々な物が実は建築の理論を使ってできているということ、また地域の中でこそできる建築というものがあるということ、先生の経験の中から教えていただき、建築に携わるものとして、改めて身の引き締まる思いがしました。

また、黒川紀章先生とのコラボなどでは、ユニークなエピソードなどもお話いただき、大変貴重な講習会でした。





— アイ・湖国びとの愛情視線 —

第8回 フォトグラファー 尾崎正樹さん

何気ない日常をとらえて



おざき まさき
尾崎 正樹さん

1974年、広島県呉市生まれ。滋賀県内のアウトドア・レジャーの関連会社に勤める。
2003年、独学でフォトグラファーに転身。
<http://ozakin.cocolog-nifty.com/>

琵琶湖の源流、水源の郷と呼ばれる高島市朽木。“湧き水がある場所に住みたい”という子どもの頃からの夢をかなえ、2001年に同市朽木市場に移り住んだ。山深い里の暮らしに少しずつ溶け込むうちに、ある日ふと「フォトグラファーになろう」と思い立ったという。以来、日常の何気ない風景や人を撮り続けている。

朽木では湧き水を活用する分水塔がいたるところにあり、パイプで各家庭に引き込んで水道とは別に生活用水として使っている。屋外で野菜を洗ったり、畑に使ったりする時以外は流しっぱなし。流れ落ちた水は泡を含んでキラキラ光りながら気持ち良く水路を巡っていく。「ただただ、すごいと感嘆するばかりです。水不足で困っている国から見れば夢のような光景。安心感やありがたさを強く感じるのは、前世が砂漠の民で水に飢えてたのかもしれないね」と、いたずらっぽく笑いながらシャッターを切る。



湧き水を撮影する尾崎さん

自宅から徒歩1分の「丸八百貨店」（国登録文化財）では近所の主婦たちが喫茶&ギャラリーを開いており、昼食はほぼ毎日通っている。集まった人々と世間話で盛り上がる中で伝わってくるのは人間関係の濃さ。それぞれのこと

をよく知っていて互いに気に掛け合い、心配したり喜んだり。他人なのに親せきのよう。「密な付き合いを敬遠する人もいるだろうけど、僕は好き。いいな、撮りたいな、と思うのはそんなつながりなんです」。

—昨年からは水中カメラも使い始めた。夏になると自転車に乗って子どもたちと一緒に川へ行く。エネルギーの塊であるかのような彼らの行動、表情のすべてが憧れだという。「僕にとって子どもは師匠。彼らにどれだけ近づけるか、いいオッサンが本気になって頑張ってます」。憧れの水と子どもという最強の組み合わせ。たくましく育つ彼らの姿をまとめ、いつか発表したいと思っている。

昨年は高島市で活動する作家の工房や作品などを巡り見るイベント「風と土の交響」に参加し、自宅で作品展を開いた。孫を抱いたおじいさん、散歩する親子、水遊びする子どもたち——。地元の人に見てもらうことに重きを置き、撮り貯めた写真を展示した。「ここはあそこだ」「この子はあの人の孫」などと写真を指し、ローカルな話が弾む様子が見えなかった。朽木を特集したテレビ番組では“外から来た地元の人”として紹介され、子どもたちは“オザキン”と友達感覚。親世代からは息子のように世話を焼かれている。いいなと思った瞬間に自然体でカメラを向ける姿は、撮られる側にとっても、もはや当たり前の日常風景になっているようだ。

(取材 M・Y)



川にせり出した岩は飛び込みのポイント。
今も変わらず子どもたちの姿がある

写真提供:尾崎正樹

がんばれ湖国の建築士 No.1

災害に備えて「かまどベンチ」事業をやっています！！

(社)滋賀県建設産業団体連合会「かまどベンチ」実行委員会委員長

湖東支部 小倉 善紘 (滋賀県建築士会副会長)

地震や台風などの災害時に備え、県民の方々の防災意識を高めると共に、建設にかかわる私たちが社会貢献に資するために、災害時における共助のまちづくり事業として「かまどベンチ」事業を平成23年度4月より開始致しました。

事業は私が所属する(社)滋賀県建設産業団体連合会「かまどベンチ実行委員会」が企画・実施を行い、非常時に地域住民が集まる公共公園や施設敷地内を対象に県内7ヵ所に設置致しました。

「かまどベンチ」とは通常はベンチとして使用してもらい、非常時に座板を外して「かまど」として被災時の炊き出しに活用してもらう為の物で、レンガ積み木座板の自慢の作品です。

災害に備えると共に、災害にあった時には住民自らが共に助け合いながら立ち直れるようにと私たち建設に携わる者の願いを込めて行ったボランティア事業です。今後も継続して実施すると共に、関係団体の仲間にも呼び掛けを行ない、地元住民の方々と共に活動の輪を広げ、安心して暮らせる街づくり、共助のまちづくりを目指してゆきます。



2月の暦

1	水	仏滅		9	木	赤口		19	日	仏滅	
2	木	大安		10	金	先勝		20	月	大安	
3	金	赤口		11	土	友引	建国記念の日	21	火	赤口	
4	土	先勝	・二級・木造建築士免許証明書交付式 ・第3回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展 ・第5回「建築士の日」フェスティバル	12	日	先負	Doシリーズ No.60「民家移築再生の魅力とプロセスを学ぶ」	22	水	友引	
				13	月	仏滅		23	木	先負	
5	日	友引	・第3回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展	14	火	大安		24	金	仏滅	青年委員会 研修旅行(熊本)
				15	水	赤口	第4期所属建築士定期講習(立命館大学)	25	土	大安	↓
6	月	先負		16	木	先勝	評議員会	26	日	赤口	
7	火	仏滅		17	金	友引	全国女性委員長会議	27	月	先勝	
8	水	大安	・四役会 理事会	18	土	先負	全国女性建築士連絡協議会 京都大会	28	火	友引	
								29	水	先負	

おうみ賢人 い い なおすけ 井伊直弼 (彦根市)

近江彦根藩第15代藩主。江戸幕府にて大老を務め、日米修好通商条約に調印し、日本の開国近代化を断行した。この件が発端で桜田門外の柵築藩邸の門前にて暗殺される井伊家の館からは維新後、直弼の遺品と思われる大量の洋書や世界の地図などが発見されており、「開国と富国強兵こそ日本が生き残る道」と考えていたという彼の志と博識が伺える。しかし、「井伊直弼」の人物像に関しては諸説あるので、現在の日本と照らし合わせて一考してみても?



井伊直弼像